

中央環境審議会水環境部会瀬戸内海環境保全小委員会(17回)・ヒアリング  
20191008 法曹会館

---

# 瀬戸内海のエコツーリズムの振興

～瀬戸内海の自然と文化を継承するために～

豊かな

瀬戸内海へ

一般社団法人 瀬戸内海エコツーリズム協議会 理事長

広島工業大学 客員教授 上嶋英機

# 瀬戸内海環境保全特別措置法の改正 (2015.10)

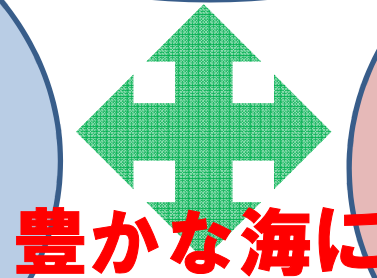
## 新・瀬戸内法 4本の柱

1. 沿岸域の  
環境の保全  
再生・創出

場の保全  
藻場、干潟  
底質、窪地環境配慮  
型構造

3. 自然景観  
文化的景観  
の保全

エコツーリズム  
教育・学習  
自然体験  
原風景



豊かな海に

2. 水質の  
保全・管理

流入負荷  
流入栄養塩  
栄養塩管理

4. 水産資源の  
持続的利用の確保

The New York Times (2019年1月9日)

「2019年に行くべき52の場所」

第7位に日本で唯一 瀬戸内諸島が選出された



海外から「アートと自然が調和する日本の内海」と高い評価  
この価値をどのような形で提供できるのか！

最後の住人の中上裕陽さんが島を眺めた様子。岡山県瀬戸内市、小玉重塗撮影



# 去りゆくひと 死んでゆく島

## —— 老いる国はどこに向かうのか

その島は、ひとが足を踏み入れるのを拒んでいるようだった。

瀬戸内海に浮かぶ岡山県の黒島は、本州からわずか1.5km先。小舟をチャーターして5分、浜辺には小型船が放置されていた。水をかぶり、エンジンがさびて赤茶けている。最後の住人となった中上裕陽さん(85)のものだった。2カ月前、ここを去った。

島をめぐる取材をした7年前、「お迎えがくるまで、島の面倒を見る」と語っていた。この島に生かしてもらった。先祖の墓を、神社を、守りたいのだ。

だが、体力が衰え、船の乗り降りが難しくなった。10月に瀬戸内市の本州側に移り、一日のほとんどをテレビの前で過ごす。

無人になった島は草木が伸び放題だった。キャベツ畑は荒れ、長靴とタオルが干したまま残されていた。海を見渡す高台に出た。6基の墓が並ぶ。墓石がま

国が指定計255。今後30年で性があると。島だけでとされる村。ら車で約2。群馬県南。れた195。万を超えて。875人。は62%と全。総面積の。め、コンニ。で栄えた。で平也で



2018年(平成30年)  
12月30日  
日曜日

天気 6 9 12 15 18 21(時)

東京	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	0	9
横浜	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	0	10
千葉	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	10	9
さいたま	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	10	8
札幌	☁☁☁☁	☁☁☁☁	☁☁☁☁	☁☁☁☁	☁☁☁☁	☁☁☁☁	☁☁☁☁	70	1
仙台	☁☁☁☁	☁☁☁☁	☁☁☁☁	☁☁☁☁	☁☁☁☁	☁☁☁☁	☁☁☁☁	30	2
名古屋	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	0	7
大阪	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	●●●●●●	10	8
福岡	☁☁☁☁	☁☁☁☁	☁☁☁☁	☁☁☁☁	☁☁☁☁	☁☁☁☁	☁☁☁☁	30	3



朝日新聞東京本社 本日の編集長=佐野哲夫  
〒104-8011東京都中央区築地5-3-2 電話03-3545-0131 www.asahi.com

都市研究の都市大  
東京都市大学  
2019年に創立90周年を迎えます

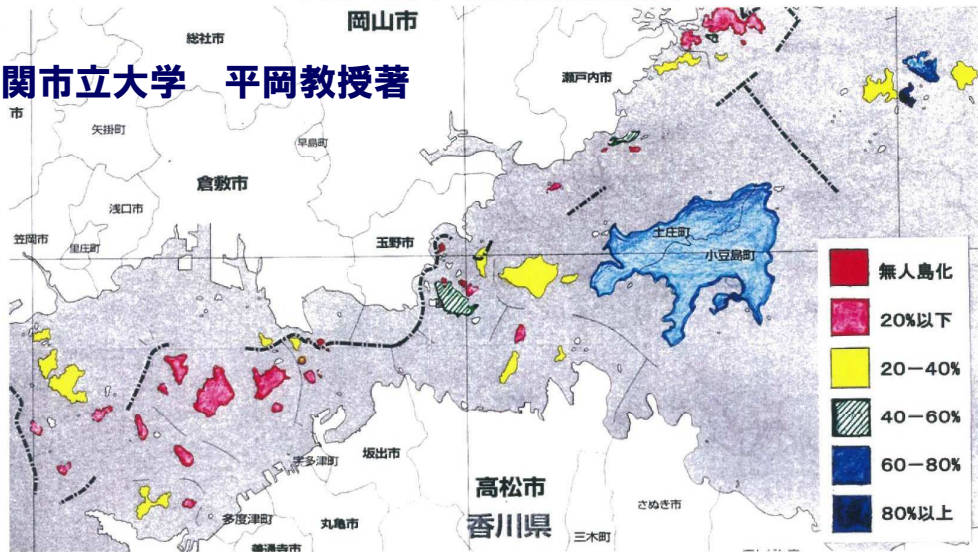
オピニオン&フォーラム・社説・声  
社説 安倍政権の2018年 責任とらぬ悪例残す 7面

色丹島民 日本への思いは

日口首脳が日ソ共同宣言を基礎に交渉することで合意し、色丹島民が揺れている。ロシア人助手を派遣し

1955~2005年 瀬戸内海東部の島嶼の50年間の人口変動  
(1955~2005年 1955年を100とした割合)

下関市立大学 平岡教授著



出典:下関市立大学 平岡教授「日本の島々と瀬戸内海の島々」

広島・山口県 国勢調査

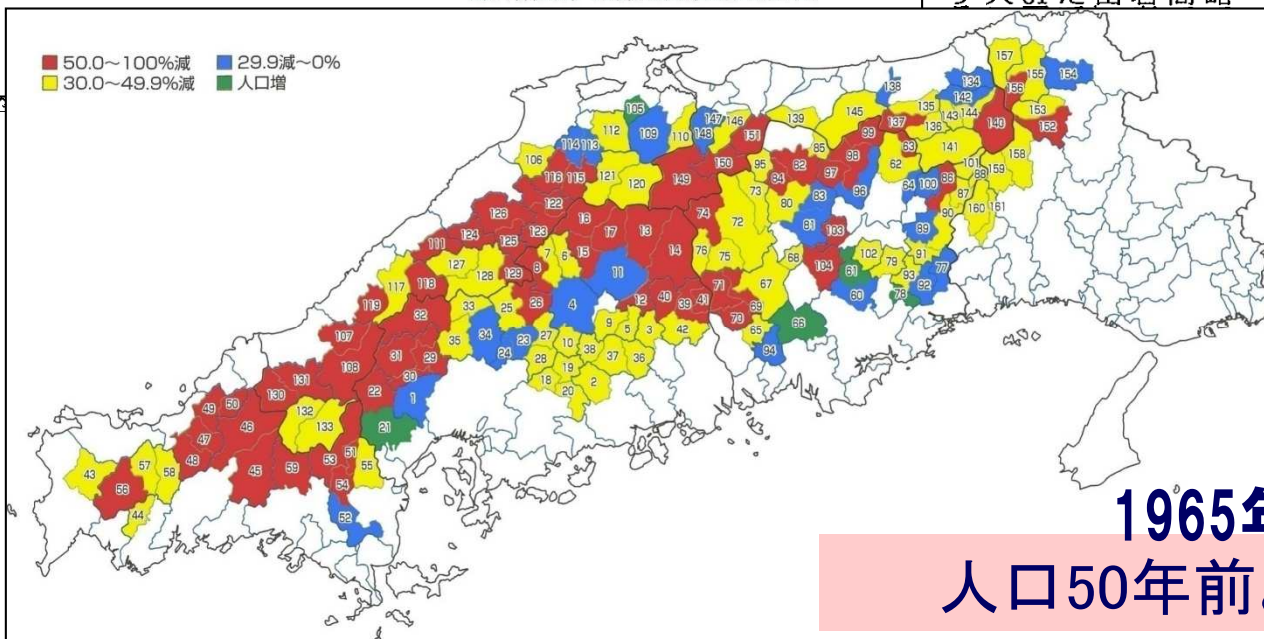
広島、山口両県などが発表した2015年国勢調査の速報値は、中国地方で人口減少が加速している実態をあらためて浮き彫りにした。中国山地や島に位置している自治体で、大きな減少率が目立つ。各県は、国の地方創生を呼応して策定した地方版総合戦略などに基づいて対策を強め、減少幅の抑制を目指す。目標達成のハードルは高い11面関連。  
(松本恭治、村田拓也、川井直哉)

目標達成は高い壁

山間・島しょ部過疎進む

のは明らかだ」と危機感をあらわにした。

県の総合戦略度までの5年間基本目標に「若千人の雇用創出定。有効な手段ければ60年に81と想定する真人1万人を維持す



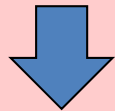
中国新聞  
2016. 1. 26

1965年~2015年  
人口50年前より49万人減

山口県上関町

八島の人口

1960年 669人



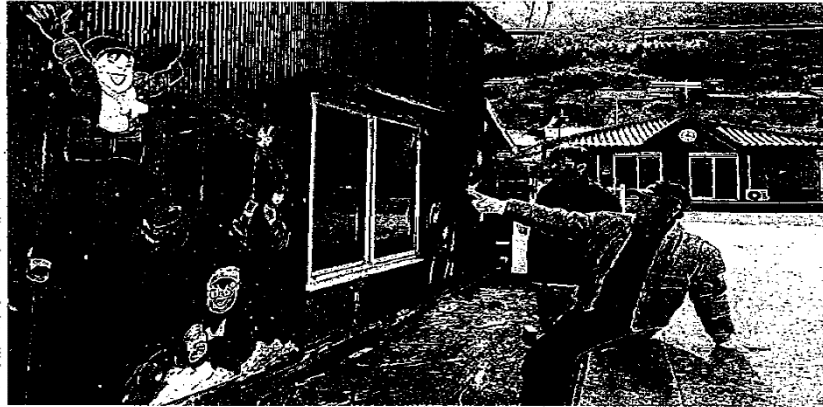
2015年 28人

漁師1人

80才以上60%

(2019年 12人 未確認)

超高齢化の島 求む！若者



八島を明るくしようと、絵を描いた板を集落に張ってきた大田さん(手前)。隊員の来島を心待ちにする

町、協力隊員配置へ

山口県上関の八島

山口県上関町は、高齢化率が9割を超す住民28人の離島の八島に、4月から地域おこし協力隊員を配置する方針を決めた。求めるのは任期後も島に住み続け、活力づくりとお年寄りのサポートを両立してくれる人材。住民は「若い人が来ればパワーをもらえる」と、名乗りを上げる人が現れることを期待する。

(井上龍太郎)

東京や大阪など都市部の20〜39歳を対象に、1人を募集する。最長3年の任期を終えても定住し、起業や就業の意欲のある人を希望



八島は町役場の南約12kmにある県最南端の島。漁業や畜産をなすに1960年には669人が暮らした。人口流出が進み、今は63歳の男性以外、全員高齢者。80歳以上が6割を占める。空き家の多くは廃屋となり、かつての牧場への道は雑草と倒木で消えた。最近泳ぎ着いたとみられるインシシ対策も手つかず。消防団は60、70代で担う。

「超高齢化の島」は地理的な難題を抱える。海を挟んだ約30km先には着陸の再稼働が見込まれる四国電力伊方原発(愛媛県伊方町)があり、重大事故時は島外

避難が想定される。上関町には凍結状態の中国電力上関原発建設計画もある。

町は隊員に、ヒシキなどの収穫や観光情報の発信を期待。加えて1日3往復の定期船の切符販売、荷物運搬、各戸への声掛けも業務とし、世話役を幅広く務めてもらう考えだ。

八島区長の大田勝さん(77)は「ニメキランターや動物の絵を板に描き、島中に設置。集落の盛り上げと、帰省する孫たちのもとに心を砕いてきた。みんなと仲良くし、島を元気にしてくれる若者が来てくれれば」と願う。町は「漁場に恵まれ、起業の機会もある」とPRしている。

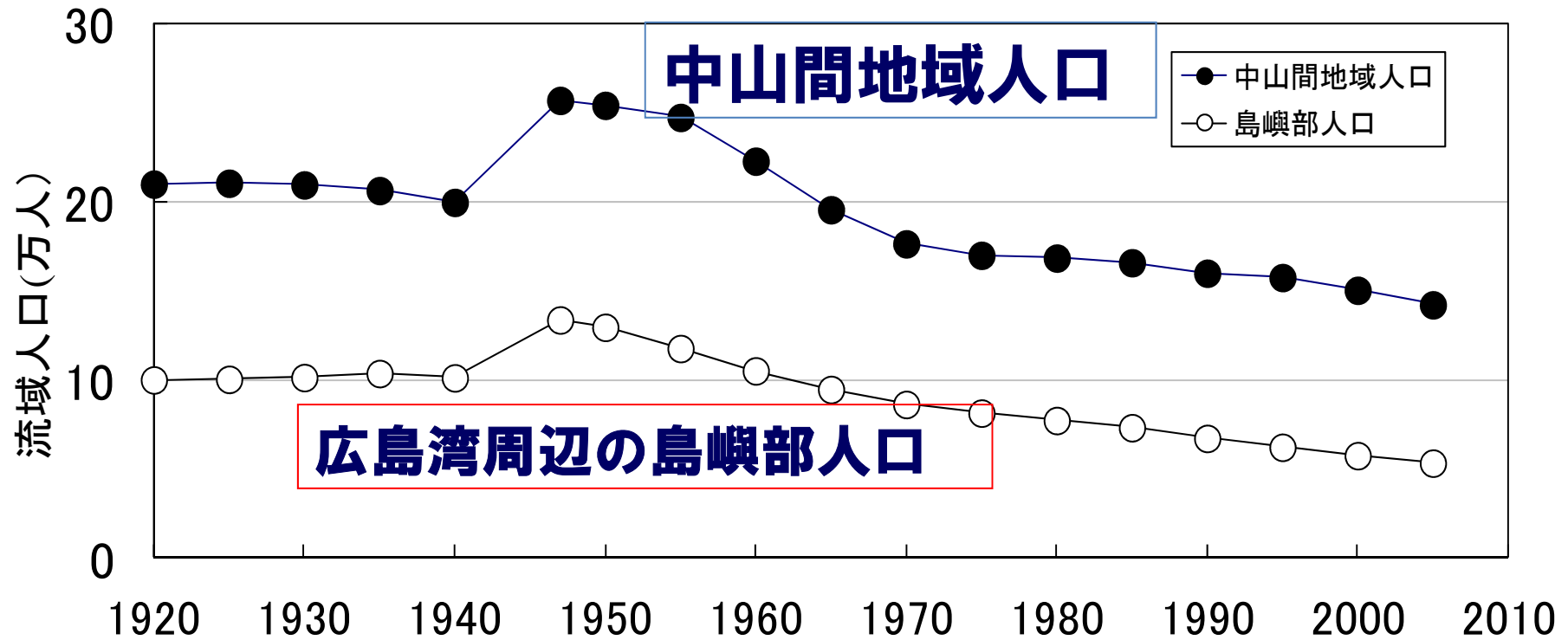
# 八島（やしま）：エコマップ

## 山口県上関町八島（2015年）

八島の最盛期の昭和23～25年頃には民家は120件～130件あり、人口は670人ほどいたが現在は28人程度。



# 広島湾流域の人口推移(1920 - 2005)

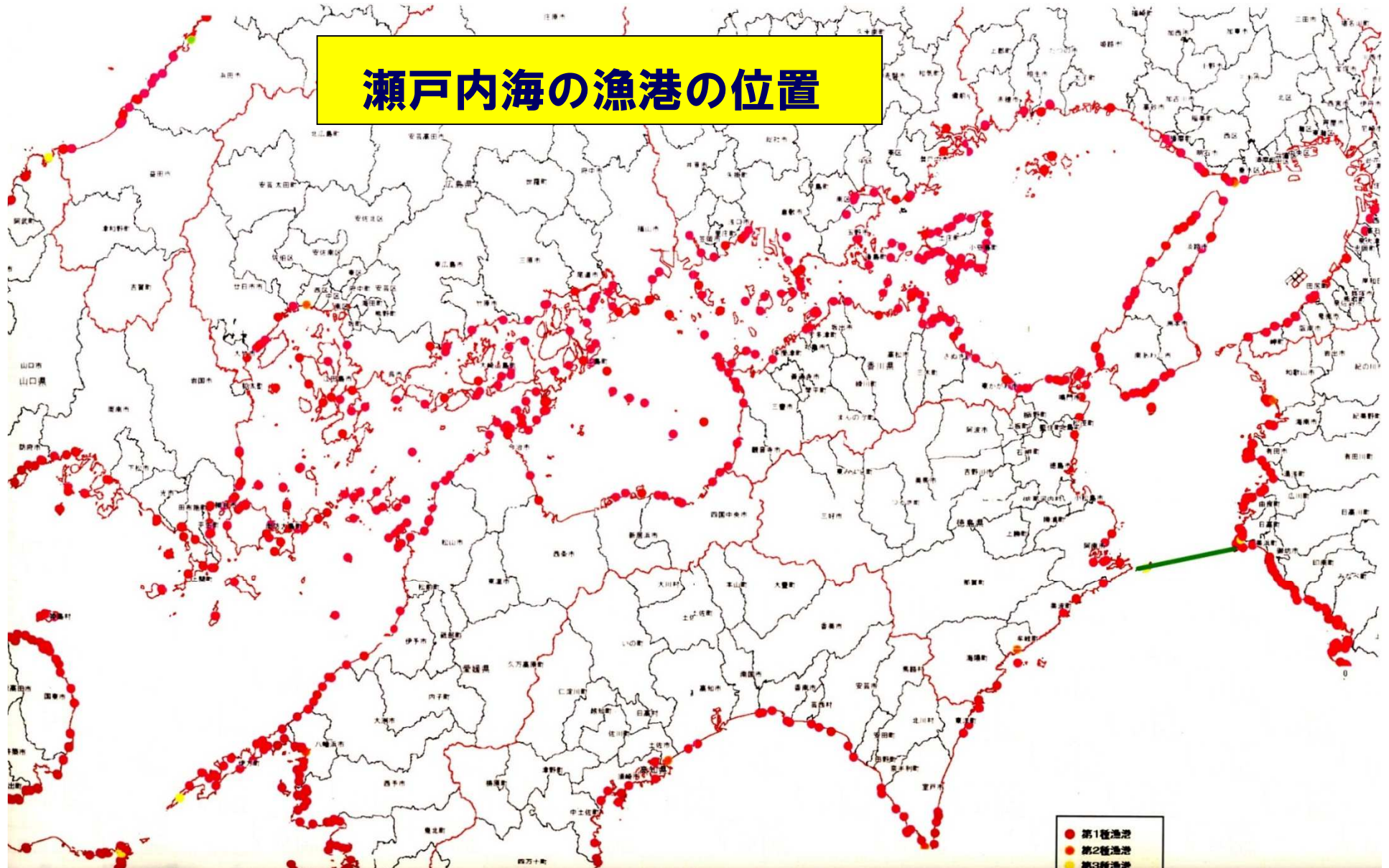


(大正9) (昭和5) (昭和15) (昭和25) (昭和35) (昭和45) (昭和55) (平成2) (平成12) (平成22)

**島嶼部人口 1947年(S-22年) 最大 : 約 13万人**  
**2005年(H-17年) 約 5万人**



## 瀬戸内海の漁港の位置



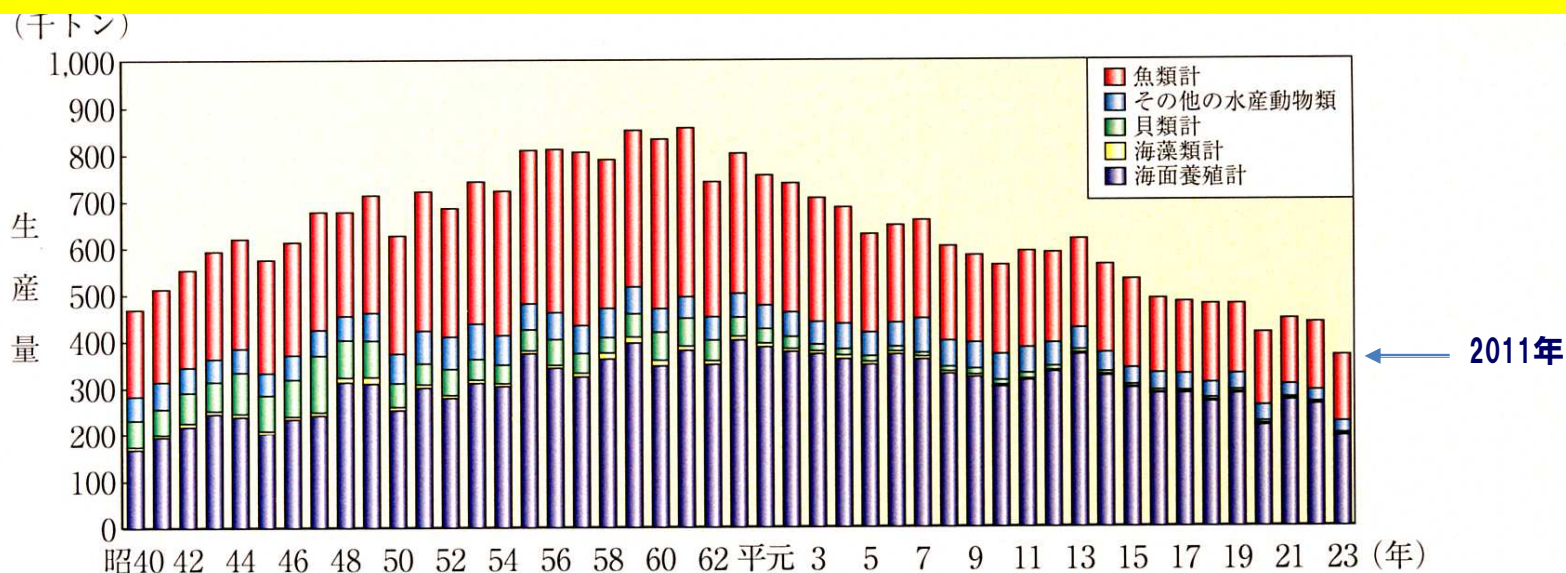
瀬戸内海の漁港数： 462漁港

全国の漁港数： 2914漁港

# 瀬戸内海の漁業生産量

**2011年 36万トン**

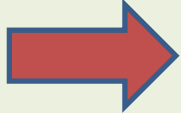
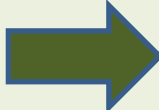
(海面漁業生産量(魚類)17万トン + 海面養殖生産量19万トン)



注) 平成23年の「海面養殖計」は兵庫県の秘匿措置分を含まない値である。  
 出典：平成17年以前：「瀬戸内海区及び太平洋南区における漁業動向」(農林水産省中国四国農政局統計部)  
 平成18年、19年：農林水産省近畿農政局統計部資料  
 農林水産省中国四国農政局統計部資料  
 農林水産省九州農政局統計部資料  
 平成20年以降：農林水産省資料

**戦前：12～14万トン (海面漁業 + 海面養殖)**  
**1955年 (富栄養化前)：20万トン/年 (海面漁業)**  
**1985年 46万トン/年 (海面漁業)：ピーク**  
**2011年 17万トン/年 (海面漁業)**  
**貝類：1972年：12万トン→1992年：1万3000トン**

# 瀬戸内海は豊かな海か ？

- 漁業生産量は激減
- 漁村、漁民の減少  過疎化
- 島民の人口減少  レベル 4 無人島化

- 瀬戸内海の東部と西部で社会システムの格差が大きい。
- 島嶼部の海上交通が激減した。物流の停滞、観光の崩壊。
- 市町村大合併の影響か、文化歴史資産の維持管理が不能状態。
- 祭事・伝統（信仰仏事）の担い手が無く途切れている。
- 漁村の崩壊、漁業の停止
- 島内の生産の力、管理の力、住む力が消滅した。

# 課題：島嶼部の人口減少過疎化→ 無人島化

## ■ 社会システムの崩壊 → 文化的景観の崩壊

1. 漁業の停止、漁業権の放棄・管理不能
2. 漁村の崩壊、村の文化財の消滅、交通体系の停止
3. 島内の固有生産資源の根絶（島内産業の崩壊）
4. 島内の廃校、教育、医療の場から遠退く

## ■ 自然環境の管理不能 → 自然景観の破壊

1. 竹の繁茂、段々畑の崩壊、白砂清松の消滅
2. 瀬戸内海国立公園の管理活用が不可能、
3. 沿岸域の景観・環境管理が不可能  
（漂着ごみの問題、藻場等の資源管理、生態系の管理）

# 提案Ⅰ： 瀬戸内海の「自然と文化」の実態調査

## ① 瀬戸内海全体の「国勢調査」を実施する。

### 島嶼部の歴史伝統の実態調査

#### 人口状態、文化財、漁村、産業、交通

- ・ 調査結果から「瀬戸内海白書」を作成し現状把握を行う。
- ・ 島嶼部の無人島化の実態を明らかにして、無人島化を阻止し文化資産の保護を行い、エコツーリズムに活用。

## ② 同時に瀬戸内海「生態系一斉調査」を連動して行う。

- ・ 藻場、干潟、白砂清松、棚田、沿岸生物
- ・ 「スナメリの瀬戸内海全域一斉調査」

## ③ 「瀬戸内海国立公園」の環境資源調査

- ・ 瀬戸内海国立公園の活用を図るため環境資源の存在を確認し、満喫プロジェクトやエコツーリズムに活用できる整備を行う。

無人島化の危機にある島嶼部の蘇生へ  
「エコツーリズム」の運用

エコツーリズムで何ができるのか



豊かな海づくり

# ツーリズムの分類

- **マスツーリズム**  
大量送客、大量消費型の観光
- **エコツーリズム**  
地域の個性、個人志向の観光
  - グリーンツーリズム      農業体験
  - ブルーツーリズム      漁業体験
  - フォレストツーリズム      森林体験
- **ジオツーリズム** : ジオパークでの体験
- **サステイナブルツーリズム**  
持続可能な環境資源の保護(国際的な活動)

# エコツーリズムの定義

自然環境や歴史文化を体験し、学ぶとともに、地域の自然環境や歴史文化の保全に責任を持つ観光のありかた。

『自然に基づいた活動』であり『教育的』であり『持続可能』でなければ、エコツーリズムとは言えない

◆ 資源保護 + 観光立地 + 地域振興 + 経済効果

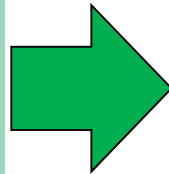


## 提案Ⅱ： エコツーリズム推進による地域活性化と無人島化の阻止

- ① エコツーリズムの振興による瀬戸内海の自然・文化的景観を守り、活かす、**新たな社会基盤の構築**  
(社会基盤：集落再編、生産と市場、DMO体系、新宿泊施設、二次交通・船舶)
- ② 「**瀬戸内海エコツーリズム全体構想**」の創出  
各自治体の活動母体(自然・文化資産活用)を連携する瀬戸内海全体のエコツーリズム推進機構を創る。  
(自然・文化資産： 国立公園、世界遺産、現全体構想母体、祭事、現象)
- ③ 若者を島嶼部に定住させ、自然、文化・歴史の資産を活用したエコツーリズム事業(観光産業)を展開し、島嶼部の新たな地域活性化を図る。  
(若者： 定住者(JIUターン)の確保、生活の基盤を確保)  
(フランス地域のケメネーズ島の例を参考に。)

## 環境資源の保護と利活用の政策

エコツーリズム



- ナショナルトラスト
- 国立公園
- 世界遺産
- ラムサール条約登録地
- 自然保護地域  
(サンクチュアリー)
- ジオパーク

---

1999年

## 沿岸域保全整備機構

### Du Conservatoire du Littoral

フランス型 ナショナルトラスト

---

#### 創設目的

沿岸域の**土地**を買い取ることによって、  
無秩序な**建設開発**に歯止めをかけ、  
沿岸域の豊かな**自然と歴史文化**に価値のある  
「**風景**」を将来に残そうとするもの。

- サイト数 428 site
- 面積 58,838 ha  
(瀬戸内海国立公園面積 62,781ha)
- 海岸距離 799km

(欧州地域開発基金) ノースウェストヨーロッパ (NWE)  
島嶼活性化のプロジェクト: ISLA プロジェクト

ケメネーズ島 (フランス; 沿岸域保全整備機構・CDL)

■エコツーリズムを活用した島嶼部活性の国際PJ

コンセプト “エコ・レストレーション”

人を島に戻し、農業を中心とした生産性のある活動を行う。

○2003年~2007年 「ISLA」はNWEの五か国からなるPJ

○農場放棄地や建物の  
レストレーション (再生)

○船着場の再生

○再生可能エネルギー

施設 (太陽光・風力発電)

・水処理施設

・有機物廃水処理施設

島の活性化を図り無人島化を  
防ぐ活動、現在も人気である。



## 島嶼活性化の事例 ～ ケメネーズ島 ～

### ■ 島の管理者：

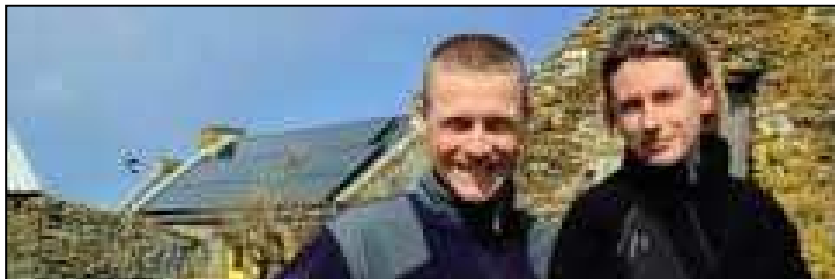
CdLの応募コンクールで選ばれた  
若い夫婦(小さな子供2人との4人家族)。

島に居住し、維持管理は自分たちで賄う！

#### 【収入源】

- 1) エコツーリストに対しての宿泊ビジネス : 連日満員
- 2) 農業: オーガニックラベルに認定されたじゃがいもや羊を主に生産(インターネット販売)。大人気！
- 3) 水産業: 夏は紅藻類を採取(食用)し、販売。  
冬はコンブを採取(肥料)。
- 4) 島への交通: フェリー代には入島税を加算。島までのタクシーボート(電動)は民間会社と契約し、宿泊費に含めて徴収。

# エコツーリズムによる 島嶼活性化の事例～ケメネーズ島



管理者夫妻



海藻を利用した料理



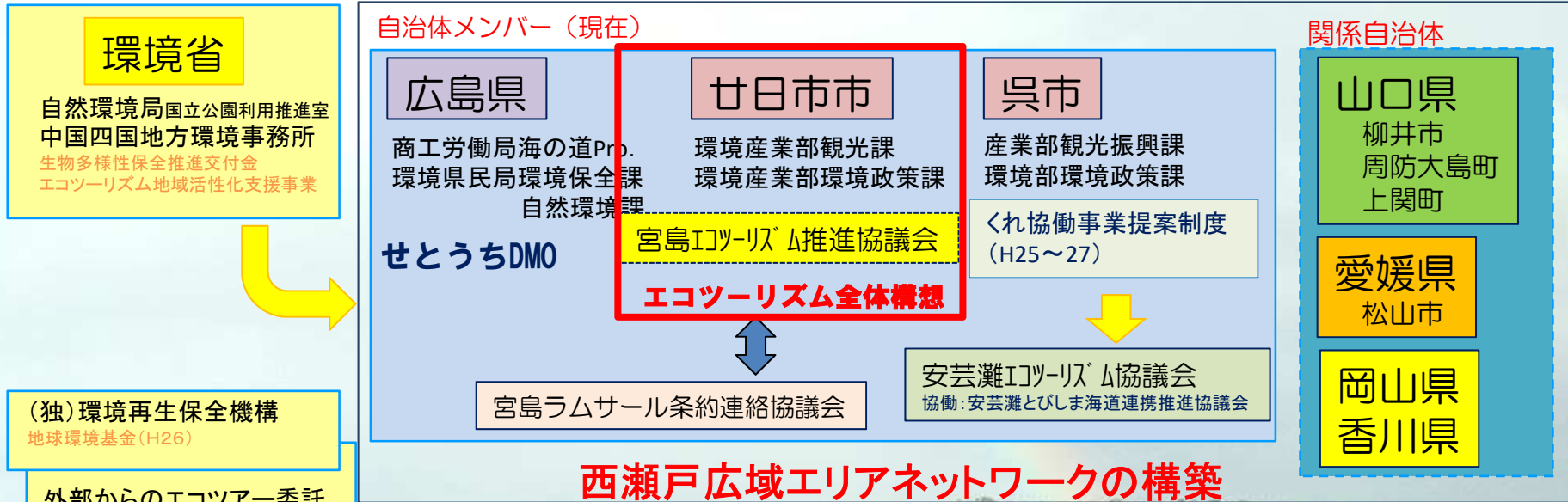
# 日本のエコツーリズムと政策

環境省・国土交通省・農林水産省・文部科学省

- **エコツーリズム推進法(2007年)**
  - 生物多様性政策とエコツーリズム(2010)
  - エコツーリズム推進全体構想認定(2014年推進)**
- 瀬戸内海環境保全基本計画の変更
  - 「エコツーリズムの推進」の項目を追加
- **「新・瀬戸内法」に、エコツーリズムの推進が位置付け(2015)**
- **日本エコツーリズム協会の状況**
  - 代表的なサイト： 知床、西表、小笠原、屋久島の活動
  - 国内の分布とカテゴリー
  - エコツーリズム大賞**
- **ジオパーク, 世界遺産の活動への貢献**
- **国立公園満喫プロジェクト(2016年) 2020年に5ヶ所**

# (一社) 瀬戸内海エコツーリズム協議会の活動

## 瀬戸内ツーリズム推進協議会 (2011設立)



## 一般社団法人 瀬戸内海エコツーリズム協議会 (2010発足)

- ①エコツアー構築事業
- ②人材育成事業
- ③インフラ整備計画事業

- 瀬戸内海におけるエコツーリズムの確立
- 事業化支援
- 継続的な人材育成

理事長・顧問・正会員・賛助会員  
 (約20団体・個人)  
 旅行関連業、調査コンサル業、  
 メディア関係、NPO、学校関係...

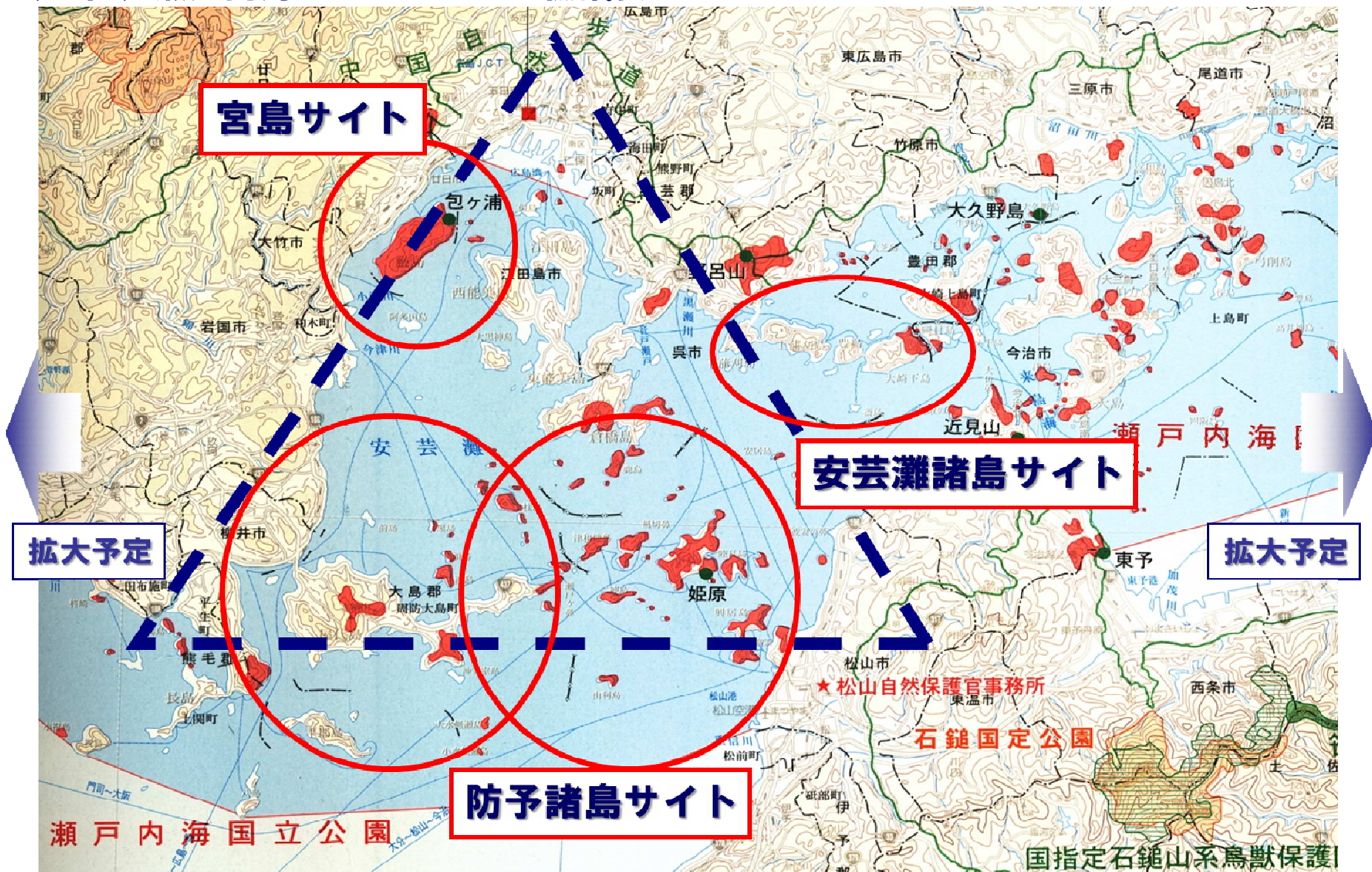
**(独)環境再生保全機構**  
 地球環境基金(H26)

外部からのエコツアー委託  
 JICA研修費(H26)、ツアー参加費等



# 活動範囲 広島・愛媛・山口のトライアングル・エリア

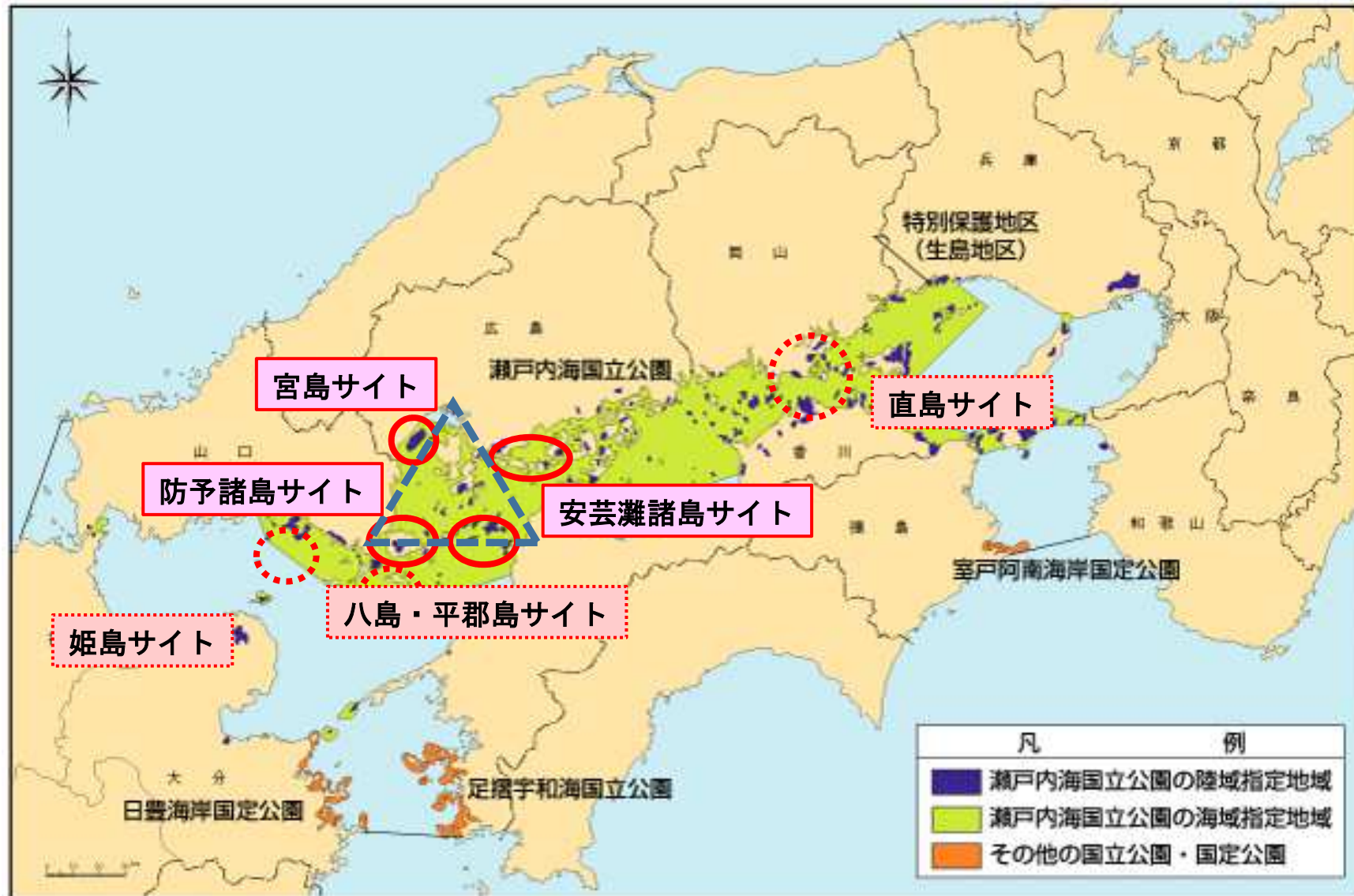
(一社) 瀬戸内海エコツーリズム協議会



図中の島内に分布する赤い領域は、瀬戸内海国立公園のサイトである。

# 活動範囲 今後、大分・岡山・香川を加えた西瀬戸広域エリアへの拡大

(一社) 瀬戸内海エコツーリズム協議会



## (一社) 瀬戸内海エコツーリズム協議会の活動内容

事業項目	目 標	主な活動
<b>エコツアー構築</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>外国人旅行者向けエコツアー開発</b></li> <li>・ 国内旅行者向けのエコツアー開発</li> <li>・ 新規サイトの開発（島嶼部）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宮島、防予諸島、安芸灘諸島エコツアー</li> <li>・ サイトマップやツアーガイドブックの作成（日本語版・英語版）</li> <li>・ 新規サイトの資源調査</li> </ul>
<b>人財育成</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 養成研修「エコ塾」の開校</li> <li>・ <b>エコツーリズム資格認定制度</b></li> <li>・ フォーラムの開催</li> <li>・ <b>専門ガイド・インタープリター</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エコツアーとジョイントで「<b>エコ塾</b>」を開校</li> <li>・ エコツーリズムフォーラムの開催</li> </ul>
<b>施設整備と活用</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エコツーリズムのための施設整備と地域活性化</li> </ul>	エコツアーでの施設活用
<b>エコツーリズム推進全体構想の推進</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「瀬戸内海エコツーリズム」の事業化を促進させ、「西瀬戸広域エリア」のネットワークを構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>宮島エコツーリズム推進全体構想の策定</b></li> </ul>

## 2. エコ塾


**知ろう！！**  
**瀬戸内海のエコツーリズム**  
**エコ塾の開校**

瀬戸内海をフィールドとし、インバウンドを意識したエコツーリズムを学びましょう。

参加対象者：エコツーリズムに興味がある方、学びたい方  
 定員：20名（先着順）  
 ※エコ塾への参加は無料です。ツアーの参加は有料になります。

**第1回 エコ塾**


日時：2018年11月21日（水曜日）9：30～12：30  
 場所：学校法人ひらた学園 I WAD環境福祉リハビリ専門学校  
 講師：上嶋英機（（一社）瀬戸内海エコツーリズム協議会理事長）  
 内容：「エコツーリズム概論」  
 講師：谷川正芳（（一社）Zegon 代表理事）  
 内容：「大崎上島におけるエコツアーとインバウンドについて」



講師：谷川正芳

**第2回 エコ塾**

日時：2018年12月12日（水曜日）9：30～12：30  
 場所：学校法人ひらた学園 I WAD環境福祉リハビリ専門学校  
 講師：上嶋英機（（一社）瀬戸内海エコツーリズム協議会理事長）  
 内容：「エコツーリズム概論」  
 講師：藤本正明（山口県東部海域にエコツーリズムを推進する会会長）  
 内容：「周防大島及び周辺島々におけるエコツアーとインバウンドについて」




講師：藤本正明

**エコツアー**


インバウンドの目線でアクティビティを体験しよう！  
 日時：2018年12月15日（土曜日）9：00～17：00  
 場所：大崎上島町（※竹原港集合・解散）  
 アクティビティ体験  
 ①大崎上島周遊～スナメリウォッチング～（9：30～11：00）  
 ②歴史散策～木江地区～（11：00～12：30）  
 ③大崎上島の水産のお話（13：00～14：00）  
 ④秋の収穫体験～みかん・レモン～（14：00～15：30）  
 ※天候等によりアクティビティの変更がございます。

エコツアー参加費  
 一般：2,000円  
 学生：1,000円  
 ※内訳：保険料、食事代、資料代



**第3回 エコ塾**

日時：2019年1月16日（水曜日）9：30～12：30  
 場所：学校法人ひらた学園 I WAD環境福祉リハビリ専門学校  
 講師：上嶋英機（（一社）瀬戸内海エコツーリズム協議会理事長）  
 内容：「エコツーリズム概論」  
 講師：畷崎雅子（（一社）ひろしま通訳・ガイド協会理事）  
 内容：「瀬戸内海のインバウンドの受入れについて」



講師：畷崎雅子

主催：瀬戸内ツーリズム推進協議会（事務局：一般社団法人瀬戸内海エコツーリズム協議会）  
 ※本事業は、環境省の平成30年度生物多様性保全推進交付金（エコツーリズム地域活性化支援事業）事業の一環として、運営しております。

### 第1回エコ塾

日時：2018年11月21日（水曜日）9：30～12：30

講師：上嶋英機（（一社）瀬戸内海エコツーリズム協議会理事長）

内容：「エコツーリズム概論」

講師：谷川正芳（（一社）Zegon 代表理事）

内容：「大崎上島におけるエコツアーとインバウンドについて」

### 第2回エコ塾

日時：2018年12月12日（水曜日）9：30～12：30

講師：上嶋英機（（一社）瀬戸内海エコツーリズム協議会理事長）

内容：「エコツーリズム概論」

講師：藤本正明（山口県東部海域に

エコツーリズムを推進する会会長）

内容：「周防大島及び周辺島々における

エコツアーとインバウンドについて」

### 第3回エコ塾

日時：2019年1月16日（水曜日）9：30～12：30

講師：上嶋英機（（一社）瀬戸内海エコツーリズム協議会理事長）

内容：「エコツーリズム概論」

講師：畷崎雅子（（一社）ひろしま通訳・ガイド協会理事）

内容：「瀬戸内海のインバウンドの受入れについて」

# 宮島エコツーリズム推進全体構想

## ～宮島エコツーリズム推進活動のねらい～

平成27年度～平成30年度：推進協議会の立ち上げと準備会

- ①宮島の資源の活用と保全を両立させるルール化と、合意形成や実践場を創出することが出来る。
- ②宮島全体で、エコツーリズムを推進していくことで、エコツアー事業者だけでなく、地域住民や一次産業、商業観光業など多様な主体が、エコツーリズムに対して共通の理解を持つことが出来る。
- ③全体構想を認定された市町村は、全国的に大きなPRとなることで、観光客、特に外国人旅行者へのブランディング効果を上げることが出来る。

## 提案Ⅲ：漁業・農業との連携エコツーリズムの推進 (グリーン・ブルーツーリズム)

### 瀬戸内海島嶼部における無人島化対策として、 「豊かな瀬戸内海」の創出ために

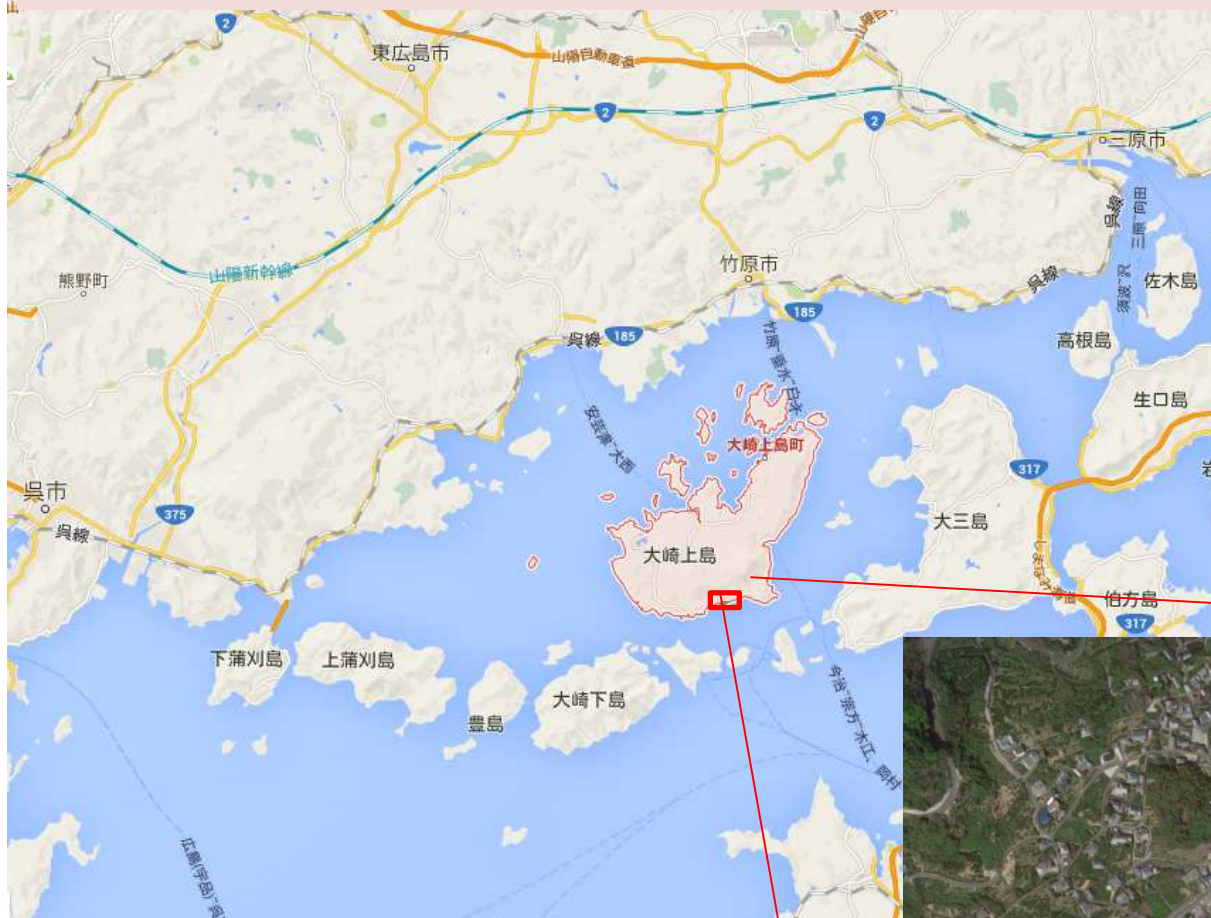
- ・ 多機能的な漁港漁場の再生整備を図り、島内の農業生産と漁業生産と併せて体験的なエコツーリズムによる市場化(DMO)を図る。

### ～島内の賑わいの創生～

現在、広島県の離島「**大崎上島**」にて検証事業を実施中

漁港の海洋牧場化、藻場造成と新農業生産物とのコラボによる島内エノツーリズムDMOを構築。

# 大崎上島の漁港漁場再生と賑わいの創生



**大崎上島の人口**  
( 2017.1.1 現在)

**総人口 : 7,839人**  
**65才以上 : 3,697人**  
(全体の47.2%)

**高齢化、広島県の中で2位**

**大崎上島の漁港（沖浦）**



# 宮島エコツアー

外国人を対象とした  
宮島の海と山の自然を体験するエコツアー



瀬戸内海国立公園  
ユネスコ世界遺産指定・ラムサール条約登録  
日本三景



# 宮島エコツアー 外国人対応



2013 9/28-29

■ Meeting place: Miyajimaguchi  
Sambashi Bridge (behind the Souvenir shop  
« Momiji Honjin »)

■ Meeting time: 09:00

■ Participation fee: max. JPY 15,000  
(may be less)

■ Expected number of participants:  
First registered 10 persons

## Miyajima eco tour

« Fascinating  
marine &  
seashore life  
discovery »



Initiated by: Association for promotion of tourism in Setouchi region  
Organisation bureau: Setonaikai Ecotourism Association  
Contact : Satoshi Tomida e-mail:tomida@mikuniya.co.jp tel:082-259-3371

## アクティビティー

- 船による七浦巡り
- 腰細浦潮間帯生物観察
- 青海苔浦自然観察  
スケッチ
- 宮島東岸ウォーキング  
自然観察、砲台跡見学

## 得られた事

- 旅行会社との連携
- 滞在型ツアーの構築
- 日本在住外国人コミュニティー  
を活用した集客

# 宮島エコツアー

# 七浦神社

# 船で巡る七浦エコツアー



# 防予諸島（周防大島）エコツアー

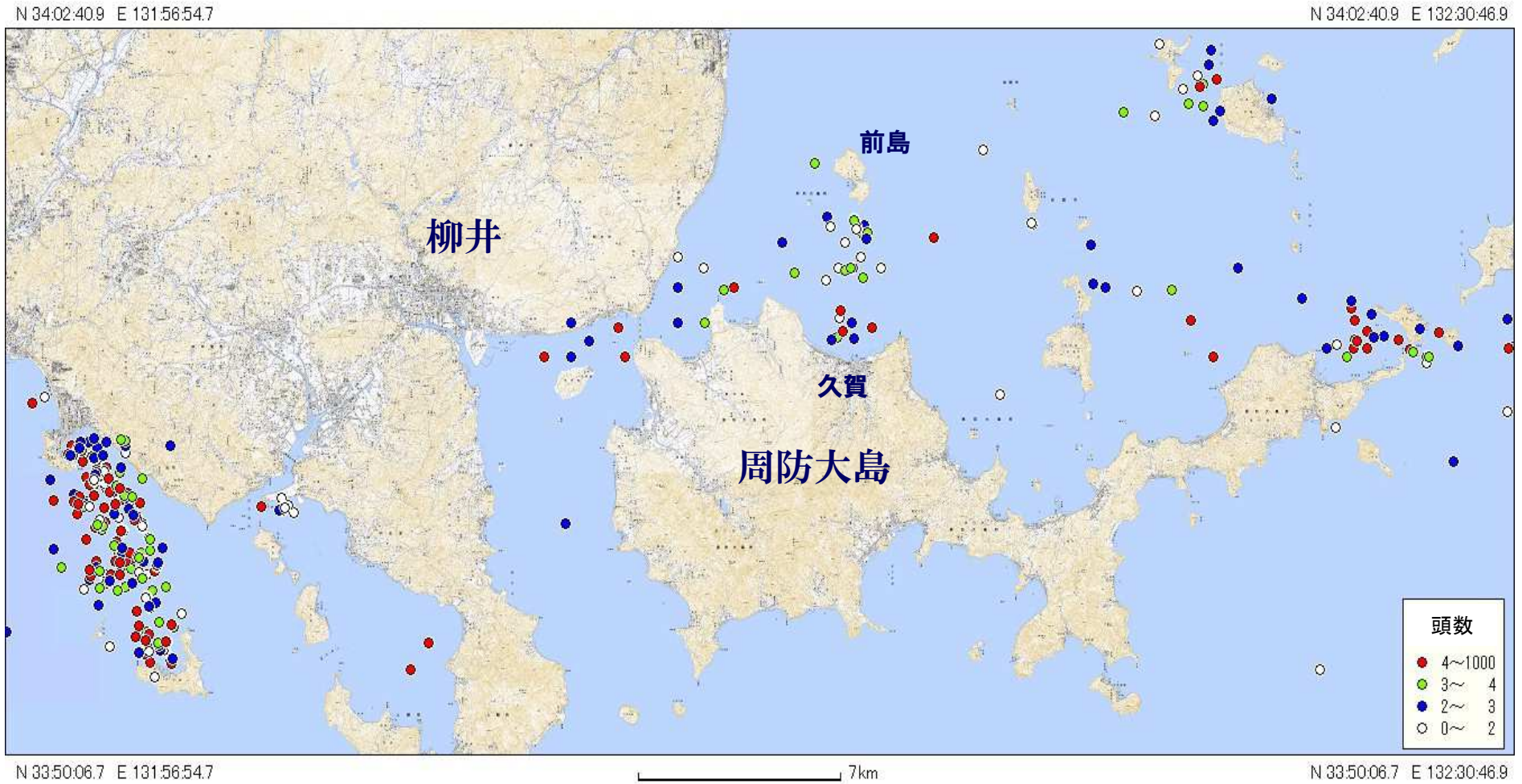
～防予諸島サイト 2015年～

瀬戸内海 防予諸島エコツアー  
～木原小学校 スナメリ学習教室～



瀬戸内海国立公園  
生態系の頂点 スナメリ  
海域公園指定 ニホンアワサンゴ群生地

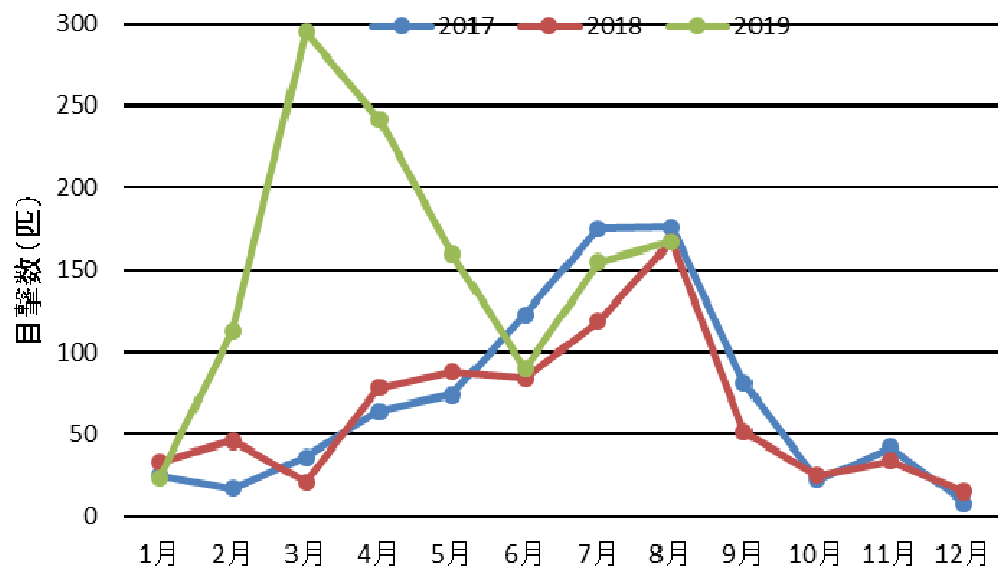
# 船舶からのスナメリ目撃情報 2008年～2014年



# 久賀一前島間 定期連絡船



目撃頭数(2017~2019)



# 防予諸島（周防大島）エコツアー ニホンアワサンゴウォッチング

地家室に移動し、チャーター船に乗船。地元のNPO自然と釣りのネットワーク藤本氏より、まずは、地域の歴史・文化のレクチャー。



NPO法人 自然と釣りのネットワーク



モニターに映る映像に一同釘付け



実際に水中カメラでダイバーさんに撮影してもらい、船上のモニターにて観察。

## まとめ : エコツーリズムの役割

～豊かな瀬戸内海のために、エコツーリズムで行うこと～

- 島嶼部の無人化、過疎化を止める
- 瀬戸内海の島嶼部の活性化と賑わいを創る
- 国立公園の利活用と管理に貢献(満喫PJ)
- 文化的景観の保全と継承(祭事の継承)
- 地域の環境資源の認識(ブランド化)と活用
- 環境観光産業としてのビジネス・雇用促進
- 生物多様性の実態把握と保全・継承に貢献
- 漁業、農産業の発展

A photograph of a small boat on a vast, reddish-orange sea at sunset or sunrise. The water is filled with ripples and reflects the warm light of the sky. The boat is positioned in the lower center of the frame, moving towards the right. A person is visible on the boat. The overall scene is serene and captures a beautiful moment in nature.

**ご清聴ありがとうございました。**

**撮影：海洋写真家 脇山 功（瀬戸内海エコツーリズム協議会会員）**